

### 【講評】

智頭農林高校は、自然豊かな環境に恵まれ、質実剛健を基本方針として特色ある専門教育を行う高校である。農林業は国民生活の基礎部分であって、園芸科学科・森林科学科・生活環境科は人々の生活や幸福を支える礎であり、今後脚光を浴びる学科と考えられる。特に植物のバイオ技術や木材加工技術は当校の伝統技術であり、今後も世界に通用する **only one** 技術の可能性を有している。これらの技術開発や伝統の維持については、県や他教育機関との連携を含め今後検討して頂きたい。

生徒の基礎学力向上のために実施されているマルチベーシック授業の取り組みは、生徒に基礎学力をつけるために有効かつユニークな方策であり、学校全体の取り組みとして運営され、効果を上げている点は大いに評価できる。また、現状に満足することなくシステムの改善努力が行われており、より効果的な仕組みとして発展することが期待できる。

基礎学力の定着、規範意識の醸成、朝読書の推進、授業力の向上、資格取得挑戦者の増加、以上5つの具体的目標を定め、教職員が一体となって学校改善に取り組んでいる。難しい課題も多々あるが、ひとつずつ着実に改善していこうという意気込みが伝わってきた。今後は、チーム力を一層発揮し、課題の克服に取り組んで頂きたい。

また、「学ぶ喜びを実感させたい」「達成感を味わわせたい」「インパクトのある授業をしたい」など、愛情と志とをもって教育活動に取り組む教職員個々の真摯な姿勢を確認でき、それが日々の教育に活かされているものと思われる。今後は、より組織的な取り組みとして教育の質の向上や授業の改善に反映してもらいたい。

以下は、評価チームとして高く評価し、今後も継続・発展させて欲しい点である。

- ① 朝読書は、静粛な雰囲気の中で行われ大きな成果を挙げている。朝読書を契機として、図書館の利用者数が平成 21 年度比 6 割増、貸出し冊数が同 8 割増となり、大幅な向上を示していることは評価に値する。朝読書に留まらず、より発展的に読書が推進されることを期待したい。
- ② 生徒による授業評価の結果がよく分析され、授業に反映されている。
- ③ 進路指導においては、現今の厳しい雇用情勢の中にあって、100%に近い就職率を得ていることに敬意を払いたい。この要因には、進路指導部通信「質実剛健」の頻繁な発行・配信や、インターンシップの充実した取り組みなどがあることを付記したい。
- ④ 管理職を中心にして、生徒指導や基礎学力の向上に努力していることが認められる。
- ⑤ 生徒が育てた農産物や作品を町民に販売する学校祭を通して、生徒のやる気を引き出す努力をしている。

一方、今後更なる改善を期待したい点と、評価委員としての提案を以下に記す。

- ① 生徒の服装を正すためには、例えば、教職員自身が TPO に応じてきちんと着替えをするなど、模範を示すことが有効である。
- ② 粛々と学校運営が進められているが、全体的雰囲気として明るさや活力が少し不足しているように感じた。
- ③ 平成 21 年度から始まった朝読書は、前述のように成果を上げているが、全員参加に至っていないように思われた。今後は、この取り組みの完成度を高めて頂きたい。
- ④ 教職員に接するときの生徒の笑顔や、積極的な挨拶がないことに併せ、歩く姿や授業態度から、学校生活の楽しさが理解できていない生徒も見られた。
- ⑤ 生徒の多様性に伴い指導の困難さが生じており、そのことが教職員の心のゆとりを無くし、状況をより難しくしているように思われた。
- ⑥ 智頭町が開催している「どうだん祭り」、および学校の文化祭と合同開催の「智頭町農林業いきいき交流祭り」に、学校としてより積極的に参加し、生徒が地域とつながっているという実体験をさせると、生徒の服装や授業を受ける態度も変わってくるのではないかとと思われる。

生徒一人一人の成長を願う教職員の気持ちと心意気は、評価委員に十分に伝わってきたが、それを具現化するための取り組みにおいては、上述のように改善の余地があると感じた。学校教育だけでは限界があると考えられるので、今後は保護者・地域と学校が一体となり、更に教職員の自らも変わる積極的な姿勢により、生徒の全人的育成を目指していただきたいと考える。